

## 1 学校教育目標

郷土を愛し、自らの役割を見つけ、全力で伸びようとする児童の育成

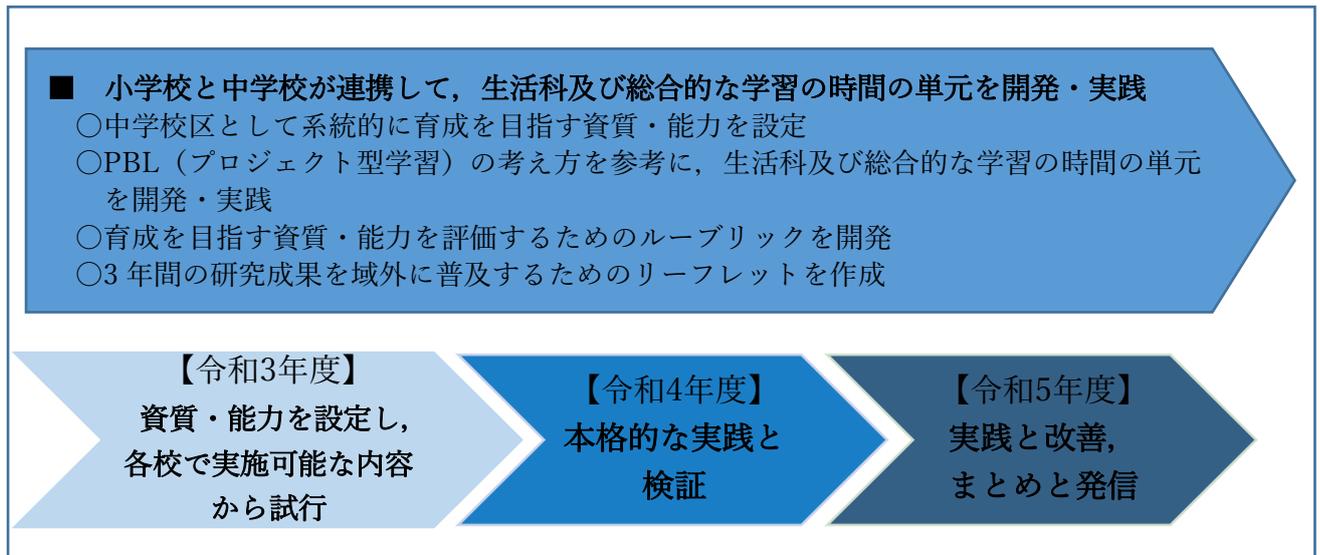
## 2 研究主題…※探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業（第二中ブロック）を受けて

児童が主体的に探究し、資質・能力を高め合う学びの創造（3年次）

～生活科・総合的な学習の時間におけるプロジェクト型学習の実践と検証を通して～

## 3 主題設定の理由

令和3年度から3年間、広島県教育委員会より「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、三原市立第二中学校区の小学校4校、中学校1校で教育研究に取り組んでいる。生活科・総合的な学習の時間においてプロジェクト型学習(答えのない問い、「社会に開かれた教育課程」、主体的・対話的で深い学び)の考え方をもとに、単元計画の開発や実践、資質・能力を評価するためのルーブリックを開発することを踏まえ、令和3年度より「三原だるまプラン」の単元構成を新たに構築し、地域の題材を扱った学習教材を活用した単元開発、授業実践を行っている。



※研究推進イメージ図（R3.2.26 探究的な学習の在り方に関する研究推進地域授業に向けた連絡協議会資料より）

本校でも、この「探究的な学習の在り方に関する研修推進地域事業」の取組に沿って令和3年度は、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考に、育成を目指す資質・能力を系統的に設定し、生活科及び総合的な学習の時間の単元計画を開発し実現可能な内容から試行した。そして令和4年度は「三原だるまプラン」に則った単元を構成し、実践を行った。しかし、ルーブリックの活用や児童が主体的に学習に向かう授業づくりに課題が見られた。そこで令和5年度はルーブリックの活用や、児童が主体的に学習に向かうことができる授業づくりの改善を行いながら実践し、研究成果の発信を行っていく。

## 4 研究の進め方

### （1）ルーブリックの活用

#### ① ルーブリック作成の流れ

学校ルーブリックの作成→教師が児童の実態をもとにルーブリックを作成(児童にわかりやすい言葉で短く)→児童にB評価のルーブリックを提示し、A評価を児童が考える。(長く時間をかけない)

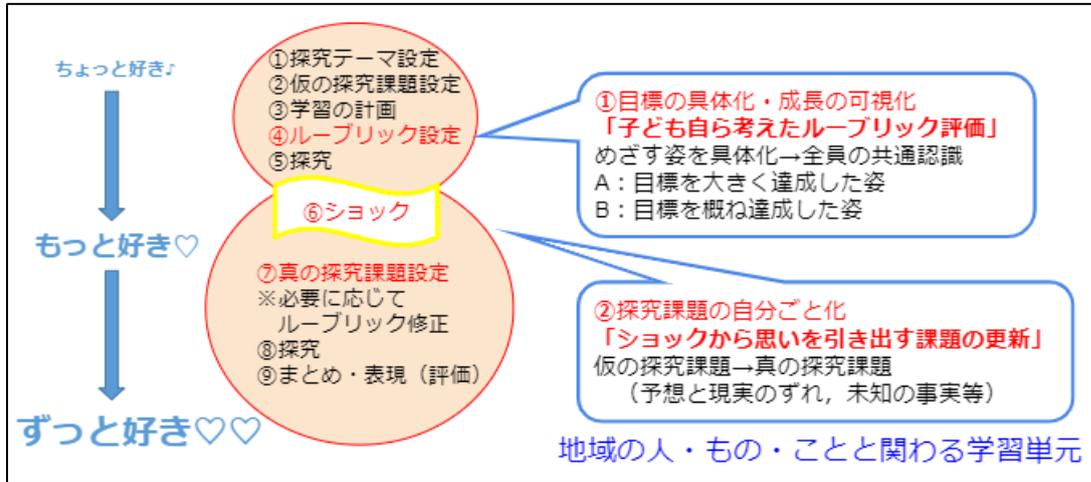
② 授業の中でのルーブリックの活用

授業の初めに A 評価と B 評価を提示する。授業後には児童自身で振り返りを行い、資質・能力を活用することができたか評価を行う。

③ ルーブリックの見直し

夏季休業中にルーブリックを見直し、児童の実態に合っていないければ修正を行う。

(2) だるまプラン



R5年度「探究だより」No.1 研究推進リーダー（三原小 田中先生）より

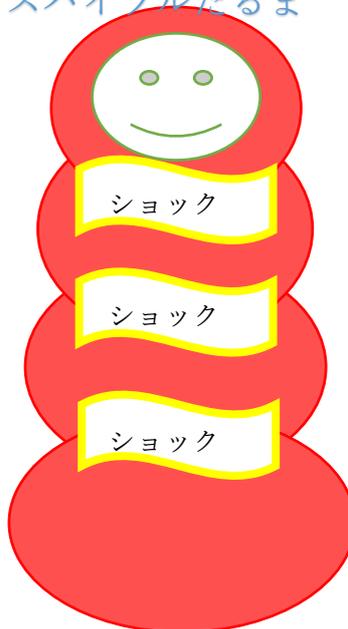
① ショック1発型  
ベーシックだるま



【大きなショックが1回】

★ショックを経て、仮の探究課題から真の探究課題へと更新するタイプ

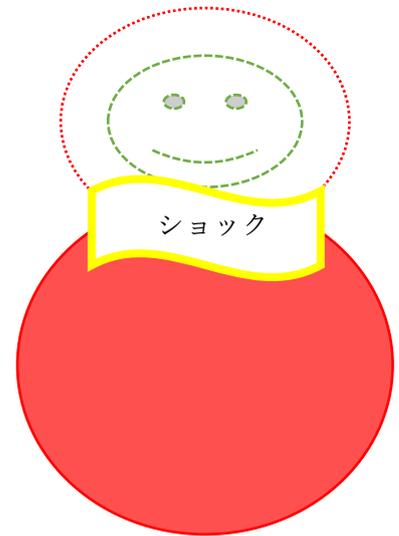
② ショック多発型  
スパイラルだるま



【小さなショックが複数回】

★複数のショックを経て、仮の探究課題から、徐々に真の探究課題へと移行していくタイプ

③ ショックいきなり型  
既習ベースだるま



【単元の冒頭でショック】

★既習事項をもとに、単元の冒頭でのショックから真の探究課題をだんだん深めていくタイプ

R3年度「探究だより」No.6 研究推進リーダー（三原小 田中先生）より

## 5 研究の推進

### (1) 研究の仮説

#### 仮説①

ルーブリックを児童と作成し、A評価・B評価を授業の初めに提示し、授業の終わりに振り返りを行うことで、つけたい資質・能力が身についているか児童が自己評価したり、教師が見とったりすることが可能になるのではないか。

#### 仮説②

単元づくりに仮の探究課題と真の探究課題を設定したり、題材との出会いや学習の見通しを児童と共有した授業づくりを行ったりすることで児童が主体的に探究を行うことができるようになるのではないか。

### (2) 検証の指標と目標値

内 容	検証の指標	達成目標
ルーブリックを活用した評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルーブリックの提示と振り返りができたと答える教師：80パーセント以上(アンケート)</li> <li>○資質能力のアンケートを行い、「できた」と肯定的な評価をした児童：80パーセント以上(アンケート)</li> </ul>	ルーブリックを活用して、つけたい資質・能力が身についたか評価を行うことができる。
児童が主体的に探究する単元づくり・授業づくりの工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮の探究課題と真の探究課題を設定した単元づくりを行う。：100パーセント</li> <li>○単元計画の作成や次時にすることの確認をして見通しをもたせる工夫ができた：80パーセント以上</li> </ul>	児童が主体的に探究する単元づくり・授業づくりを行う。

## 6 研究推進体制



今年度も引き続き、第二中ブロックの研究推進リーダーを中心に「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の取組を行う。研究推進リーダーは、各校の研究担当教員と連携を行いながら、第二中ブロック全体で生活科及び総合的な学習における探究的な学習の実践を行い、普及していく。

## 7 講師

安田女子大学 教育学部  
三原市教育委員会

朝倉 淳(あさくら あつし) 客員教授  
松本 大裕 指導主事

## 8 研究計画

期 日	教科・領域等	研 修 内 容	指 導 者
4 月	総合的な学習	前年度までの取り組みと今年度の方向性 総合開きのやり方 つけたい資質・能力の見直し 学校ループリック作成 子どもループリックの作成方法	
5 月	総合的な学習	指導案の書き方 指導案検討 模擬授業	
6 月	総合的な学習	授業研究 6 月 27 日 3・4 年生担任 (森廣 武志) 5・6 年生担任 (神谷 佳苗)	広島大学 名誉教授 朝倉 淳
8 月	総合的な学習	1 学期の授業の振り返りとアンケートの分析 2 学期の授業へ向けてループリックの見直し 指導案作成・指導案検討 来年度に向けて全体計画の修正	
9 月	総合的な学習	指導案検討 模擬授業	
1 0 月	総合的な学習	自主公開 10 月 4 日 3・4 年生担当 (森廣 武志) 5・6 年生担任 (神谷 佳苗)	広島大学 名誉教授 朝倉 淳
1 1 月	総合的な学習	二中校区連絡協議会授業研 1 1 月 日 5・6 年担任 神谷 佳苗	
1 2 月	総合的な学習	2 学期の授業の振り返りとアンケートの分析 ループリックの見直し 指導案検討	
1 月	総合的な学習	模擬授業 授業研究 1 月 3 0 日 3・4 年担任 森廣 武志	
2 月	総合的な学習	次年度の研究についての方向性	